

自分の人生を切り拓くために

県中学校長会会長
(岡山市立高島中学校長)

梅原 信 芳



教育の場で「自立」をキーワードにすることがよくありますが、一般的には、日常生活での自立や、社会的自立、経済的自立などの意味があるでしょう。更には、自分の人生を切り拓いて生きること、自分に偽りなく好きなことをし、それが社会貢献となり自己実現を果たすことといった意味もあると思います。

ある農業高校の校長先生のお話です。飼育している乳牛の日中出産をされたそうです。命の誕生というかけがえない場に生徒たちを立ち会わせたいという思いを持たれていました。3年生が出産の補助をする中、入学して間もない1年生も見守ります。生徒たちは出産の瞬間、皆、涙したそうです。心を揺さぶられた生徒はそれぞれの思いをもったことでしよう。単なる飼育動物に過ぎなかった乳牛が愛おしく感じられた生徒、命の尊さについて考えた生徒もいれば、畜産という仕事にかかわりたいと考えた生徒もいたかもしれません。校長先生はおっしゃられました。

「本校の教育の目的は必ずしも農業従事者の育成ではない。本校でこそその学びを通して、地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。自分が本当に好きなことや関心のあることは、本人でも気づけていない。ましてや自分の持ち味や才能、更には適性を理解している

とは言えない。こういった体験から新たな自分を発見させたい。自分の将来を切り拓くことにつながる経験をさせたい」

本年度の全日本中学校長会研究協議会での記念講演の中で、将来の進路選択にかかわるお話がありました。「現在の小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう」という十年前の米国研究者の言葉を引用されました。現時点の職の中から自分の夢を見つけること、つまり、35%の狭き可能性に自分を閉じ込めるのではなく、将来どんな世界がやってきても順応できる柔軟性を磨くことが大切だと語られました。そこに必要な力が適応力と好奇心です。入社の際に、「家族や国のために」といった外発的動機ではなく、「その職業は楽しそう」といった内発的動機をもった社員のほうが伸びるそうです。最後に孔子の言葉を引かれました。

「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好むものは之を楽しむ者に如かず」

自立に向けた教育とは何か考えさせられます。自分が好きなこと、更には楽しく思えることを発見できる教育、自分の人生を切り拓く生徒を育てる教育を大切にしていきたいと思